みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

国立民族学博物館研究報告 vol.16-4; 表紙,目次ほか

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009202

1991——16巻4号

国立民族学博物館研究報告

●

マダガスカルの民族移動と言語形成
——民俗語彙・植物名称の意味的変遷から——崎山　理

紀年銘唐箕の形態分類——近藤雅樹

モロコシの多様化選択と品種の生成
——エチオピア西南部におけるクシ系農牧民エルボレの事例から——宮脇幸生

国立民族学博物館　〒565　大阪府吹田市千里　万博公園　TEL．06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

16巻4号　　1991年

目　次

マダガスカルの民族移動と言語形成
——民俗語彙・植物名称の意味的変遷から——……崎山　理……715

紀年銘唐箕の形態分類……近藤雅樹……763

モロコシの多様化選択と品種の生成
——エチオピア西南部におけるクシ系農牧民エルボレの事例から——……宮脇幸生……843

彙　　報……871

国立民族学博物館研究報告16巻総目次……877

国立民族学博物館研究報告寄稿要項……878

国立民族学博物館研究報告執筆要領……879

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 16 No. 4 **1991**

SAKIYAMA, Osamu — Migrations to Madagascar and Formation of the Language of Madagascar: A Comparative Study on the Folk-Vocabularies and Plant Names 715

KONDO, Masaki — Typological Classification of Winnowing Machines Inscribed with the Date of Production 763

MIYAWAKI, Yukio — Diversified Selection of *Sorghum bicolor* and Development of Indigenous Varieties: A Case from the Erbore in Southwestern Ethiopia 843

彙　報

（平成3年10月～平成3年12月）

人事異動

（教育職）　（外国人客員研究部門）

10月1日　第五研究部　LIFSON, Thomas
（ハーバード大学講師）

11月25日　第五研究部
ZUBKO, Galina Vasilievna
（モスクワ大学教授）

シンポジウム

◎「東南アジアにおける精霊祭祀―民衆知識のダイナミズム」―民族学部門第15回国際シンポジウム―

期間　平成3年11月6日（水）～13日（水）

場所　国立民族学博物館

摘要　今回のシンポジウムでは東南アジアの文化の基層にあり，多様な展開と変容をみせる精霊の観念について活発な討論がおこなわれた。

組織委員会

委員長

梅棹　忠夫　国立民族学博物館長

委　員

佐々木高明　国立民族学博物館副館長

竹村　卓二　国立民族学博物館第一研究部長

石毛　直道　国立民族学博物館第二研究部長

杉本　尚次　国立民族学博物館第三研究部長

友枝　啓泰　国立民族学博物館第四研究部長

藤井　知昭　国立民族学博物館第五研究部長

田中　武雄　国立民族学博物館管理部長

実行委員会

委員長

田村　克己　国立民族学博物館第二研究部助教授

委　員

清水　昭俊　国立民族学博物館第一研究部助教授

田邊　繁治　国立民族学博物館第二研究部助教授

宮本　勝　国立民族学博物館第二研究部助教授

杉島　敬志　国立民族学博物館第二研究部助手

林　行夫　国立民族学博物館第二研究部助手

南　真木人　国立民族学博物館第三研究部助手

佐藤　浩司　国立民族学博物館第四研究部助手

岩本　義男　国立民族学博物館研究協力課長

湯浅　叡子　財団法人千里文化財団専務理事

宇治日出二郎　財団法人千里文化財団事業部長

参加者

国　外

Susan Ellen ACKERMAN
シンガポール大学東南アジア研究所研究員（アメリカ）

Anan GANJANAPAN
チェンマイ大学社会科学部講師（タイ）

Machteld Otome HUTHEESING
マレーシア科学大学人類学・社会学部講師（オランダ）

Cornelia Ann KAMMERER
ブランディス大学人類学部助手（アメリカ）

Ananda RAJAH
シンガポール大学東南アジア研究所研究員（シンガポール）

Cholthira SATYAWADHNA
ランシット大学一般教育部部長（タイ）

Nicholas Charles TAPP
香港中文大学人類学部講師

（イギリス）

国　内

宇野公一郎　フランス社会科学高等研究所中国センター研究員

田中　雅一　京都大学人文科学研究所助教授

田邊　繁治　国立民族学博物館助教授

田村　克己　国立民族学博物館助教授

林　行夫　国立民族学博物館助手

福島　真人　東京大学東洋文化研究所助手

日　程

11月6日（水）　（オオサカサンパレス）

17:00　登録

11月7日（木）　（国立民族学博物館）

13:00　開会式，参加者紹介

セッション1（座長：A. RAJAH）

13:20　報告：田村　克己

「Between Center and Periphery: Spirit Cult among the Buddhist Burmese」

14:00　討論

15:30　報告：宇野公一郎

「Officially Recognized Pantheon in Eighteenth-century North Vietnam」

16:10　討論

11月8日（金）　（国立民族学博物館）

セッション2（座長：田邊　繁治）

9:30　報告：Nicholas Charles TAPP

「The Way of Sickness and Death: Ritual and Practical Understanding among the Hmong」

10:10　討論

13:20　報告：

Machteld Otome HUTHEESING

「Popular Strategies of the Lisu in the Ordering of Spiritual Universes」

14:00　討論

15:30　報告：Cornelia Ann KAMMERER

「Spirit Cults among Akha Highlanders of Northern Thailand」

16:10　討論

11月9日（土）　（国立民族学博物館）

セッション3（座長：N. C. TAPP）

9:30　報告：Ananda RAJAH

「The Politics of not Knowing and Rituals of Knowing: Spirit Cults, Popular Knowledge and the Problem of Power in the Karen Ethnography」

10:10　討論

11:30　報告：福島　真人

「The Birth of Belief (*Kepercayaan*): The Struggle of the Minority Religions in Indonesia」

12:10　討論

14:00　京都へ移動　ホテルギンモンドへ

11月10日（日）

9:30　京都観光

16:00　大津へ移動（比叡山経由）

11月11日（月）　（求是荘）

セッション4（座長：田中　雅一）

9:30　報告：田邊　繁治

「Sacrifice and the Transformation of Ritual: Pu Sae Ya Sae Spirit Cult in Northern Thailand」

10:10　討論

11:30　報告：Cholthira SATYAWADHNA

「Spirit Cults of the Muang and Lua at the Boe Kluea Salt Mine of Nan Province」

12:10　討論

14:30　報告：林　行夫

（座長：C. A. KAMMERER）

「From Forest to State: Village Guardian Spirit among the Thai-Lao in Northeast Thailand」

15:10　討論

11月12日（火）　（求是荘）

セッション5

（座長：M. O. HUTHEESING）

9:30　報告：Susan Ellen ACKERMAN
「Enchanted Gardens and Deconstructed Deities: Buddhist Tantrism in the Globalization of a Malaysian Chinese Healing Cult」
10:10　討論
11:30　報告：Anan GANJANAPAN
「The Changing Power and Position of *Mo Muang* in Northern Thai Healing Rituals」
12:10　討論
14:30　総括報告（座長：田村　克己）
報告：田中　雅一
「Posession: A View from South Asia」
15:00　総合討論（座長：A. RAJAH, 田村克己）
17:00　閉会式

11月13日（水）　（ホテルレークビワ）
10:30　ワークショップ
12:30　解散

◎「生活文化の展開」—国立民族学博物館特別研究　アジア・太平洋地域における民族文化の比較研究—

期間　平成3年11月18日（月）～21日（木）
場所　国立民族学博物館
実行委員会
実行委員長
吉田　集而　国立民族学博物館第二研究部
実行委員
秋道　智彌　国立民族学博物館第一研究部
小山　修三　国立民族学博物館第四研究部
近藤　雅樹　国立民族学博物館第一研究部
佐藤　浩司　国立民族学博物館第四研究部
須藤　健一　国立民族学博物館第四研究部
田辺　繁治（事務局長）
国立民族学博物館第二研究部
南　真木人　国立民族学博物館第三研究部
宮本　勝　国立民族学博物館第二研究部
吉本　忍　国立民族学博物館第五研究部
事務局
新見　惇一　管理部　共同利用係
塚嵜　美佳　「アジア・太平洋」事務局
報告者
秋道　智彌　国立民族学博物館
浅川　滋男　奈良国立文化財研究所
伊藤　亜人　東京大学
印東　道子　北海道東海大学
大林　太良　東京女子大学
倉品　博易　グアム大学
櫻井　哲男　国立民族学博物館
佐藤　浩司　国立民族学博物館
下條　信行　愛媛大学
ズグスタ・リチャード　大阪外国語大学
早木　仁成　神戸学院大学
堀田　満　鹿児島大学
山田　陽一　島根大学
吉田　集而　国立民族学博物館
吉本　忍　国立民族学博物館
亘　純吉　文化女子大学短期大学部
討論者
石毛　直道　国立民族学博物館
川崎　一平　日本福祉大学
小山　修三　国立民族学博物館
佐々木高明　国立民族学博物館
佐原　眞　奈良国立文化財研究所
中尾　佐助　大阪府立大学
福本　繁樹　大阪芸術大学
松井　健　神戸学院大学
松原　正毅　国立民族学博物館
山口　修　大阪大学
日　程
11月18日（月）

10:00　開会式
（座長　松原　正毅）
館長あいさつ　梅棹　忠夫
10:05　運営委員長あいさつ　佐々木高明
10:15　参加者紹介　吉田　集而
10:30　問題提起　吉田　集而
11:15　野生チンパンジーにおける遊びと技術　早木　仁成
（座長　福本　繁樹）
13:30　韓国の農村における土器の使用　伊藤　亜人
14:00　オセアニアの土器文化の諸相　印東　道子
14:30　コメント（東アジアの土器）　佐原　眞
15:00　討論

11月19日（火）
（座長　松井　健）
9:30　発掘された建築遺構—華南先史住居址の多様性をめぐって—　浅川　滋男
10:00　接客としての住居　ズグスタ・リチャード
10:30　貯蔵空間からみた住まいの系譜　佐藤　浩司
11:10　討論
（座長　石毛　直道）
14:00　ハヌノオ・マンヤン族の服装観—フィリピン焼畑農耕民の事例から—　亘　純吉
14:30　日本とその周辺地域における手織機の型式展開　吉本　忍
15:10　討論

11月20日（水）
（座長　佐々木高明）
9:30　東アジアにおける穴蔵貯蔵の発生と展開　下條　信行
10:00　ミクロネシアの食性と保存法　倉品　博易
10:30　コメント（埋土発酵法と穴蔵貯蔵）　中尾　佐助
11:00　討論
（座長　小山　修三）
14:00　食用植物の利用における毒抜き　堀田　満
14:30　毒流しの分布と系譜　秋道　智彌
15:10　討論

11月21日（木）
（座長　山口　修）
9:30　パプアニューギニアの秘密の竹笛　山田　陽一
10:00　民族の音，楽器のかたち　櫻井　哲男
10:30　討論
12:15　民族技術の文化史的大勢　大林　太良
（座長　吉田　集而）
14:00　総括討論
15:25　総括討論

海外における研究・調査・収集活動

氏　名	官　職	出　発	帰　国	行　先
杉島　敬志	助　手（第二研究部）	3.10. 3	4. 1.14	オランダ
松原　正毅	教　授（第一研究部）	3.10. 7	3.11. 2	トルコ，ハンガリー
杉田　繁治	教　授（第五研究部）	3.10.10	3.10.22	アメリカ合衆国
友枝　啓泰	教　授（第四研究部）	3.10.13	3.10.28	コロンビア，ボリビア
大塚　和夫	助教授（第三研究部）	3.10.31	3.11.30	モロッコ
藤井　知昭	教　授（第五研究部）	3.11. 2	3.11.11	中国，香港
佐々木高明	教　授（第二研究部）	3.11. 2	3.11.11	中国
周　達生	教　授（第一研究部）	3.11. 2	3.11.30	中国
塚田　誠之	助　手（第二研究部）	3.11. 2	3.11.30	中国

大森　康宏	助教授（第五研究部）	3.11. 9	4. 1.13	イタリア，フランス
藤井　龍彦	助教授（第四研究部）	3.11.19	4. 2.18	ペルー
田邊　繁治	助教授（第二研究部）	3.12. 1	4. 2. 9	タイ，ラオス
須藤　健一	助教授（第四研究部）	3.12. 2	4. 1.11	インド，インドネシア
林　　行夫	助　手（第二研究部）	3.12. 3	4. 2. 9	タイ，ラオス
松原　正毅	教　授（第一研究部）	3.12. 4	3.12.14	中国
藤井　知昭	教　授（第五研究部）	3.12. 5	3.12.11	フィジー
江口　一久	助教授（第三研究部）	3.12. 6	4. 3.23	ニジェール，トーゴ，カメルーン
山本　紀夫	助教授（第四研究部）	3.12. 8	4. 1. 9	ペルー，ボリビア
南　真木人	助　手（第三研究部）	3.12. 8	4. 1.26	ネパール，ドイツ連邦共和国
佐藤　浩司	助　手（第四研究部）	3.12. 9	4. 1. 7	インドネシア
栗田　靖之	教　授（第二研究部）	3.12.17	3.12.24	シンガポール，インド
長野　泰彦	助教授（第五研究部）	3.12.18	3.12.24	インド
田村　克己	助教授（第二研究部）	3.12.26	4. 2. 9	タイ，ラオス

来館者抄

10月 4 日　TRENEVSKI, Martin（ユーゴスラビア　マケドニア共和国，情報大臣）
SOMCHAI, Wudhiprecha（タイ，文化副大臣）

10月 8 日　DALLAIS, Philippe（スイス，ニューシャテル民族学博物館）

10月11日　南京博物館・無錫市博物館特別展一行
BORISOV, Andrew Savvich（ソ連ヤクート・サハ共和国，文化大臣）

10月23日　中国西南民族学会

10月26日　東南アジア文化担当記者グループ一行
ルンベラ　ヴェンヴェニド（フィリピン，雑誌“クルトラ”編集長）
エカチャイ　サニットスダー（タイ，“バンコク・ポスト”特集記者）
プーカーンチャニット（タイ，“サイアム・ラット”紙催し・文化編集担当）
チア　ヘレンヨク　チューン（シンガポール，“ストレイツ・タイムズ”紙芸術担当記者）
パンチェン　ルイ（シンガポール，連合早報“華字紙”編集部員）
タン　ジム　イアン（マレーシア，“ニュー・ストレイツ・タイムズ”紙記者）
ワヒッド・カスラム（マレーシア，“ウツサン・ムラユ”紙副編集長）
スヘンドラ　ヘリー（インドネシア，“ビジネス・インドネシア”紙記者・編集者）
マジア　レラ　エミリア（インドネシア，“ジャカルタ・ポスト”紙記者）

10月31日　ユネスコ・アジア文化センターアジア・太平洋文化活動推進者研修セミナー一行

11月 7 日　MACDONALD, Robert Rigg（アメリカ合衆国，ニューヨーク市博物館館長）

11月 8 日　成　建　正（中国，陝西省博物館（碑林館）副館長）

11月11日　EKEH, Peter P.（ナイジェリア，ニューヨーク州立大学教授）

11月14日　中国上海市人民対外友好協会代表団一行
団長　張　瑞　芳（中国，中国人民政治協商会議上海委員会副主席・映画俳優）
程　十　髪（中国，上海中国画院院長・上海美術家協会副主席）
江　明　惇（中国，上海音楽学院院長）
余　秋　雨（中国，上海戯劇学院院長）
鄭　玉　在（中国，上海市人民対外友好協会常務理事）
張　雪　娜（中国，上海市人民対外友好協会理事）

11月19日　梁　孝　錫（大韓民国，韓国文化芸術振興院研修館）
李　溶　鎮（大韓民国，韓国文化芸術振興院広報出版部）

11月21日　龔　煌　城（台湾，中央研究院歴史言語研究所教授）夫妻
多杰才旦（中国，西蔵研究所長）

11月22日　ブン　フェン（ラオス，文化省考古博物館局次長）

11月29日　雷　　宇（中国，広州市副市長）

12月2日　CAMP, Kimberly（アメリカ合衆国，スミソニアン研究所展示調査部長）

12月6日　IVANOV, Vyacheslav（ソ連，国立外国文学図書館館長）
ドス・サントス（ブラジル，国際経済学者）

12月7日　KINGSADA, Thongpheth（ラオス，社会科学委員会文学言語学研究所）
CHANSOMBOON, Phukhio（ラオス，社会科学委員会渉外課）

12月9日　大阪府21世紀のための友情計画招へい者一行
中国百人実業家訪日団一行
団長　劉　徳　標（中国，経貿部人事司干訓処副所長）
張　学　謙（中国，経貿部人事司干部処干部）
劉　玉　芳（中国，経貿部亜非司干部）
王　京　生（中国，北京市経貿委人教処科長）
李　光　華（中国，湖南省土畜産進出口公司）
章　穂　傑（中国，広東省経貿委人事教育処）
他19名

12月19日　車　承　統（中国，上海市政府機関工作委員会主任）
張　錦　新（中国，上海市党委規律委員会常務委員）
金　尚　植（大韓民国，韓国文化部企画管理室長）

12月23日　内蒙古建築都市考察団一行
団長　劉　兆　豊（中国，内蒙古建築庁副庁長・高級工程師）
巴　　音（中国，包頭市人民政府副秘書長・工程師）
唐　克　家（中国，包頭市規画土地管理局局長・経済師）
胡　強　寧（中国，包頭市環境保護局局長・工程師）
盧　二　昌（中国，内蒙古建築庁施工処副処長・工程師）
和　其　図（中国，内蒙古建築科学研究所所長・工程師）

国立民族学博物館研究報告　16巻　総目次

16巻 1 号

Tomoya Akimichi : Manus Fish Names …… 1
Osamu Sakiyama
西　義郎：ヒマラヤ諸語の分布と分類（中）…… 31
大塚　和夫：ナイル川流域における土地利用と灌漑農業をめぐる社会的諸関係
——北スーダン・ナイル県の一村落の事例報告——……159

16巻 2 号

森　明子：オーストリア農村における「家の墓」と女性のサービス ……223
佐々木史郎：アムール川下流域とサハリンにおける文化類型と文化領域
——レーヴィン，チェボクサロフの「経済・文化類型」と「歴史・民族誌的領域」
の再検討——……261
Yoshiho Yasugi : A Study of the Mixe Language of the Eighteenth Century:
Confesonario en lengua Mixe by Quintana ……311

16巻 3 号

藤井　龍彦：ボリビアの農民　——農民の「行動の記録」の分析（その 2）——……521
小長谷有紀：モンゴルにおけるウマ，ウシ，ヒツジの搾乳儀礼
——祝詞にもとづく再構成の試み—— ……589
中山　和芳：首長制とキリスト教
——ミクロネシア，ポーンペイ島とコシャエ島の事例—— ……633
Toshifumi Gotō : Materialien zu einer Liste altindischer Verbalformen:
4. *dogh/dugh/doh/duh*, 5. *sav/su*, 6. ^{1}*sav^{i}/sū*, 7. ^{2}(*sav^{i}/*)*sū* ……681

16巻 4 号

崎山　理：マダガスカルの民族移動と言語形成
——民俗語彙・植物名称の意味的変遷から—— ……715
近藤　雅樹：紀年銘唐箕の形態分類 ……763
宮脇　幸生：モロコシの多様化選択と品種の生成
——エチオピア西南部におけるクシ系農牧民エルボレの事例から——……843

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は，民族学（文化人類学）に関する論文，資料・研究ノート，調査研究活動報告等を掲載・発表することにより，民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は，次のとおりとする。
   (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織，運営に関与する者
   (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
   (3) その他本館において適当と認めた者
3. 原稿を寄稿する場合は，論文，資料・研究ノート，調査研究活動報告等のうち，いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお，この区分についての最終的な調整は，国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は，原則として論文及び資料・研究ノートを1段組，その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は，日本語，英語，フランス語，スペイン語，ロシア語，中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし，その他の言語を用いる場合は，編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字，記号，印刷方法等が必要な場合は，編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で，日本語を使用する場合は，原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし，その他の言語による論文の場合は，編集委員会に相談するものとする。なお，寄稿する原稿については，執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は，原則として制限しない。ただし，編集する場合は編集委員会の判断により，紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は，必ず清書（欧文の場合はタイプ）し，原稿の写し1部を添付するものとする。なお，図，表のスミ入れ，レタリングは，編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は，審査委員会において審査のうえ，採否を決定する。なお，原稿は，採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い，掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては，別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は，次のとおりとする。

〒565　大阪府吹田市千里　万博公園10-1
国立民族学博物館内
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話　代表06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は，200字詰原稿用紙を使用し，横書きとする。
2. 原稿は，図，表を除き，原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は，原則として当用漢字，現代かなづかいを用いる。
4. 句読点，括弧，各種記号等は，原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号，月日及びその他の数字は，原則としてアラビア数字を用いる。なお，年号は，原則として西暦とする。
6. 図及び表は，一図，一表ごとに別紙に書き，本文とは別に一括して添付するものとする。なお，図，表ごとに通し番号（「図1」，「表1」等の要領により記入），図，表名及び説明並びに出典等を記し，本文原稿の欄外には，それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は，写りの明瞭なもので，手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り，図及び表の扱いに準じて通し番号，説明を付けたうえ，そう入箇所を指定するものとする。ただし，カラー写真は，原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は，カギ括弧を付け，著者名，文献刊行年次，引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

   ［柳田　1942: 67–69］

   ［Leach 1961: 123］

   ［柳田　1942: 67–69, 1944: 20–22; Leach　1961: 123］

   ただし，同年次刊行物の場合は，アルファベット順により，下記のように記載するものとする。

   ［柳田　1942a: 20–22］［柳田　1942b: 10］
9. 脚注は，一つ一つ別紙に記し，通し番号を付ける。なお，本文中に脚注をそう入する箇所には，脚注の当該番号を記入し，別紙の脚注には，本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は，すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。

   (1)　文献の配列は，著者名のアルファベット順とすること。

   (2)　文献の記載は，著者名，年号，論題（タイトル），誌名，巻，号，出版社名の順とすること。

   欧文の雑誌名及び単行本名は，イタリック体にするため，原稿には下線を引くこと。また，ローマ字人名は，スモール・キャピタルとするため，二重下線を引き，日本文の場合は，論題にカギ括弧，雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は，原則としてアラビア数字を用いること。

   （例）

   論文の場合（1）

   石田英一郎

   1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13 (4): 311–330。

   Bohannan, P.

   1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14 (4): 357–372.

論文の場合（2）

杉浦　健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店，pp. 117-143。

Leach, Edmund

1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse. In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language, The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉　　靖一

1966 『文明をもった生物』日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ，M.

1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』堀一郎訳　冬樹社。

van Gennep, Arnold

1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告　16巻4号

〔監　　修〕
梅　棹　忠　夫
〔編集委員長〕
友　枝　啓　泰
〔編 集 委 員〕
石　森　秀　三
江　口　一　久
大　塚　和　夫
崎　山　　理
重　松　真由美
清　水　昭　俊
杉　島　敬　志
須　藤　健　一
田　邊　繁　治
田　村　克　己
長　野　泰　彦
福　井　勝　義
松　原　正　毅
宮　本　　勝

平成4年3月31日　発　行　非売品

国立民族学博物館研究報告　16巻4号

編集・発行　国立民族学博物館
〒565　吹田市千里万博公園10-1
TEL　06 (876) 2151(代表)

印　　刷　中西印刷株式会社
〒602　京都市上京区下立売通小川東入
TEL　075 (441) 3155(代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.16 no.4
1991

SAKIYAMA, Osamu — Migrations to Madagascar and Formation of the Language of Madagascar: A Comparative Study on the Folk-Vocabularies and Plant Names

KONDO, Masaki — Typological Classification of Winnowing Machines Inscribed with the Date of Production

MIYAWAKI, Yukio — Diversified Selection of *Sorghum bicolor* and Development of Indigenous Varieties: A Case from the Erbore in Southwestern Ethiopia

ISSN 0385-180X

National Museum of Ethnology

Senri Expo Park, Suita Osaka, Japan
phone 06 876 2151